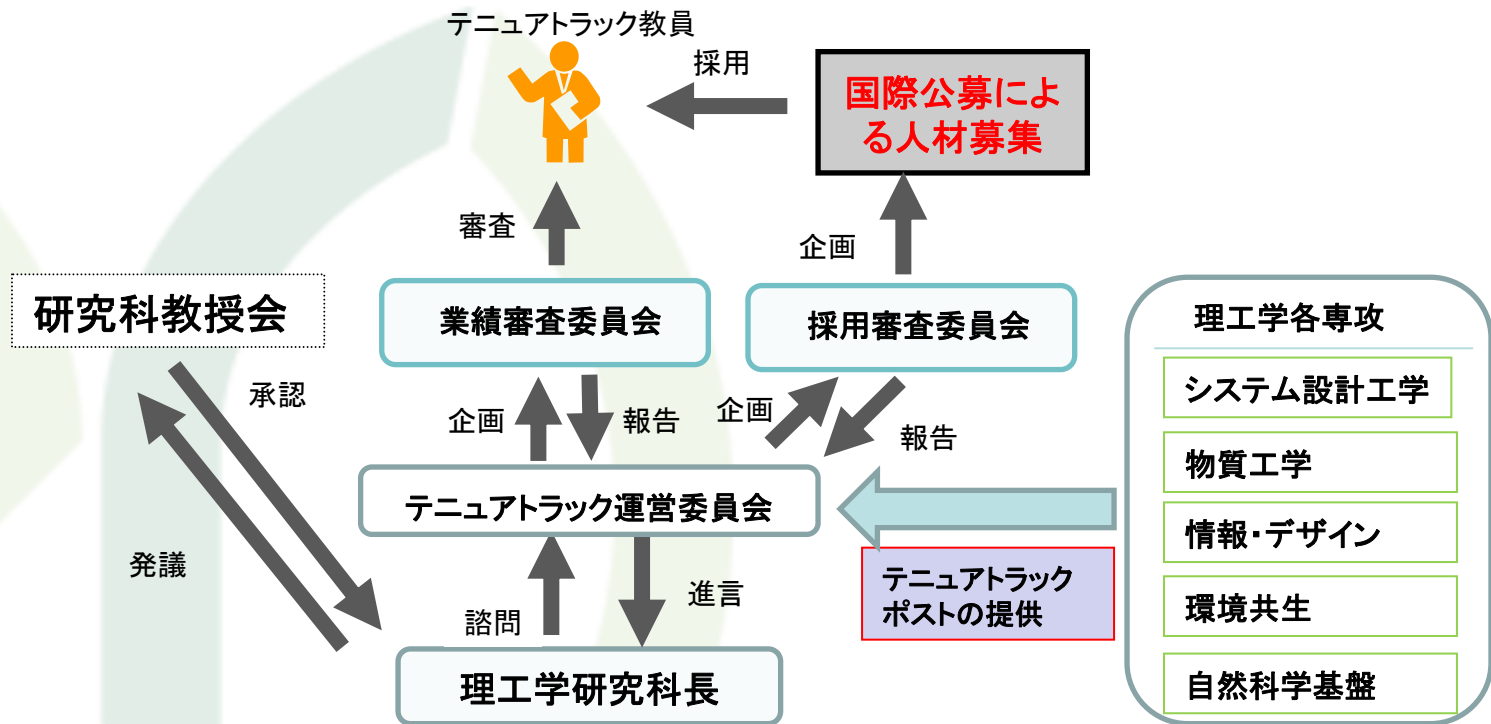


理工学研究科におけるテニュアトラック教員採用プロセス



(1) 採用審査委員会の設置

・テニュアトラック(TT)教員の採用人事を、テニュアトラック(TT)委員会(理工学研究科長や各博士後期課程専攻長で構成)が発議する。

(2) 採用審査委員会をTT教員ごとに設置

・学内選考委員5名以上(同一研究分野の教授最少2名、関連分野の教授最少3名)

・学外選考委員1名(他大学又は大学以外の研究機関の研究者)

・現在および過去に候補者を**指導した教員**は審査委員から**除外**する。

(3) 選考基準の設定

採用後研究主宰者PIとしての活動が可能かどうかの指標について、基準を議論し、公募内容を決定。

(4) 国際公募による人材募集

・**選考基準に沿って公募内容を定め、それに基づいて国際公募を実施する。**

(5) 応募者の評価

・採用申請書に提示した業績について、同一研究分野の研究者が評価項目ごとに比較するピアレビューを実施。

・書面審査により選考された最大3名の候補者について、1時間程度の研究内容に関するセミナーと質疑応答及び面接審査を実施。

・面接結果、研究業績及びその他の基準により、総合的に判断し、最適候補者をTT運営委員会に報告。

(6) 採用

・TT運営委員会は理工学研究科長に進言

・理工学研究科長は、研究科教授会に発議し、承認を得る。

理工学研究科におけるTT制度

自立的研究環境の整備

■非常勤職員を雇用し、研究活動のエフォート率70%以上を維持できるように、各種事務処理をサポート。

■研究室:40 m²/人、実験室:50 m²/人

■TT 教員にはメンターを配置。

■メンターはTT 教員により立案された研究計画が効率的に実施できるように、指導、助言、それに基づく研究計画の改善を促す。

中間審査

■業績審査委員会の体制

・「テニュアトラック運営委員会」は、

TT 教員毎に業績審査委員会を設置。

・審査委員3名(同一研究分野の教授2名、
関連分野の教授1名)

・現在および過去に候補者を**指導した教員**は審査委員から**除外**

■審査方針

・主に採用後の業績について、TT 教員の所属する研究領域の評価基準をもとに作成。

■評価基準

・採用の際に用いた評価項目と教育実績を含めたピアレビューを実施し、業績を「見える化」する手法を採用。

・評価には、必要に応じて社会貢献等も考慮。

・S(卓越)、A(優秀)、B(要努力)の三段階で評価。

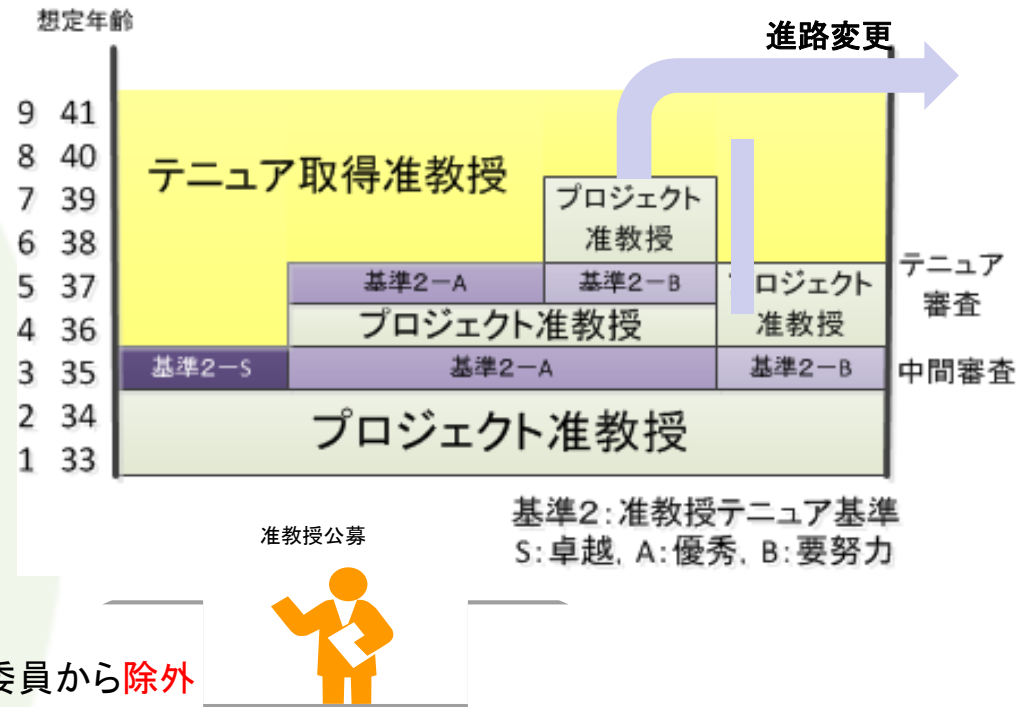
■評価結果に基づく指導指針

・評価S(卓越):テニュアの取得について研究科長に進言する。

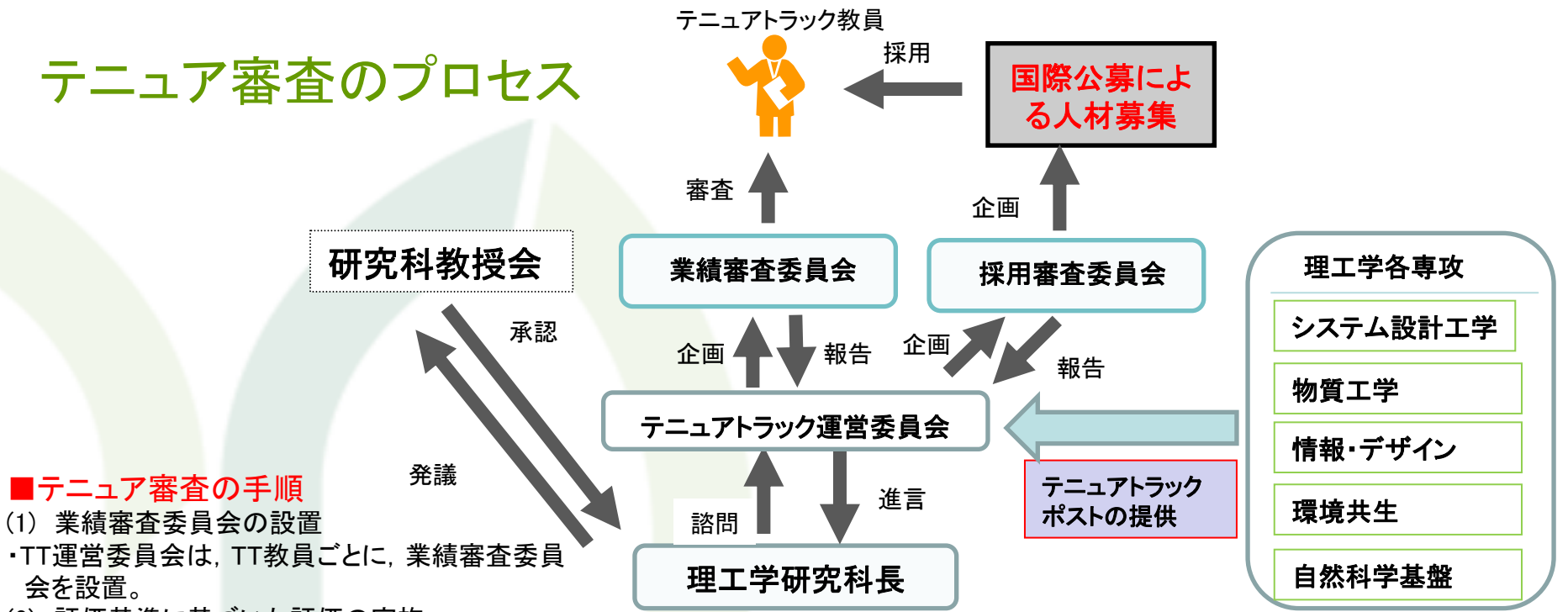
・評価A(優秀):必要に応じて当初計画の見直しと、今後の研究方針について助言する。着任後54ヶ月以降に、
テニュア審査を実施する。

・評価B(要努力):残りの任期の間に転出する方向で進路変更を指導する。

(理工学研究科は、産学公連携・イノベーション推進機構と共同で進路変更のためのサポートを実施)



テニユア審査のプロセス



■テニユア審査の手順

(1) 業績審査委員会の設置

- ・TT運営委員会は、TT教員ごとに、業績審査委員会を設置。

(2) 評価基準に基づいた評価の実施

- ・TT教員の業績について、外部審査員によるピアレビューを実施
- ・ピアレビュー結果や公開セミナー、その他の業績を、業績委員会が総合的に審査し、TT運営委員会に報告。

(3) テニユアの承認

- ・理工学研究科長は、TT運営委員会が推薦した候補者について、研究科教授会に発議しテニユア取得について承認を得る

■審査方針

- ・審査はTT教員の所属する研究領域の評価基準により実施する。
- ・審査を行う時点までの**すべての業績**を対象とする。

■業績審査委員会の体制

- ・テニユアトラック運営委員会が人選する。
- ・学内審査委員5名(同一研究分野教授2名及び関連分野教授3名)
- ・学外審査委員1名(同一研究分野他大学又は大学以外の研究者)
- ・現在および過去に候補者を**指導した教員**は審査委員から**除外**する。

■公開セミナー

- ・審査時点までの研究内容全般について公開セミナーを実施する。

■評価基準

- ・評価項目: ①研究業績(論文やレビュー、招待講演等)、②公開セミナー後の非公開の質疑応答結果、③代表者として外部資金の獲得状況、④国際的なコミュニケーション能力、⑤学会等における活動及び受賞歴、⑥博士後期課程学生の指導歴、⑦社会貢献
- ・外部審査員によるピアレビューを行い、業績を「見える化」する手法をとる。

- ・教育実績、管理・運営、社会貢献などを考慮して、総合的に評価。
- ・評価結果は、A(優秀)、B(要努力)の二段階で評価。

■審査後の対応

- ・評価A(優秀)と判断されたTT教員は、研究科教授会の審査を経て、任期の無い教員(テニユア教員)として採用される。
- ・評価B(要努力)と判断されたTT教員には、転出を勧告。理工学研究科は、雇用を2年間延長し、その間に進路変更のサポートを行う。